

# 教宣 せぶん

## イージス艦

第7回弁論に際し、私たちは高裁では2回目の陳述書を提出しました。また、継続雇用や代理店の道を歩まざるを得なかった仲間も、現況について勇気を持って陳述書を書いてくれました。

なかでも、継続雇用の道を選んだものの、精神的なストレスから会社を辞めざるを得なくなった仲間の話しは、身につまされるものがありました。外勤社員の道を捨て、心機一転、継続雇用の道を選んだものの、内勤として与えられた代理店担当業務の真の目的が、それら担当する代理店の整理解約にあったことがわかった時の、彼の精神的なストレスは相当なものでした。それは、1件の契約を取ることの難しさ、契約の多寡で収入が決まる「募集人」の苦労を経験した者でなければ、なかなか理解できないかもしれません。一般の内勤社員なら、代理店に「引導を渡す」という仕事が「宿命だから」と簡単に割り切れても、元外勤社員であるからこそ、そこに大きなストレス、働きがいのなさからくる絶望感を感じてしまうという感覚は、私たちにはとてもよく理解できます。結局、彼は「生活の安定」を捨てて、「働きがい」を選択し、会社をやめる道を選んだわけですが、新たな道で「自分らしさ」を発揮して欲しいと心から願います。最後に彼は「制度廃止とたたかう私たちのたたかいを注目しているし、がんばっていただきたいと思います」と結んでくれましたが、彼のためにも是非このたたかい、勝利しなければならないと思います。

前号にも書きましたが、報告集会で東京海上日動社を巨艦に例える話がありました。今年2月、海のルールを無視したイージス艦が漁船と衝突。尊い2名の命が奪われるという悲惨な事件が起こりました。自分がまっすぐ行けば相手がよける、そこにあるルールなど関係ないという大きなものの傲慢な考え方こそが、この事件の本質です。東京海上日動社の、「会社が決めたことだからお前たちは代理店になれ」と言っただけで労働契約を無視し従業員を社外に放逐した出方、抜本改革についてこられない代理店を有無を言わせずバツサリ切り捨てる非道さは、まさに大きさ・強さを盾に、力づくで、我が道を進もうとする「イージス艦」とダブリます。そのことによって、小さい者や弱い者がどれだけの不利益を被るのか、どれだけ困るのかなど、まったく考えていません。そこにあるのは強者の論理であり、利益至上主義という企業論理です。

イージス艦がルールを守らなければ「ルールを守れ」という世論が沸き起こります。莫大な利益をあげる東京海上日動社が、働く者と交わしたルールを無視しさらなる利

益追求に奔ったこの事件、事実を広めれば広めるほど「ルールを守れ」という世論が巻き起こります。